

宙(そら)の 駄作つ句-4

たなか踏基編

道子
の詠んだ
句：M・
踏基
の詠んだ
句：T

T 西瓜食み

戯れ句の種を吐きにけり・

T 豪雨後の炎暑で喘ぐ蜻蛉島

M 食卓も気温も

もどきのエルニーニョ

T エルニーニョ鯉肥すや温暖化

新瀉豪雨・福井豪雨のあとは
一転して東日本の猛暑

M カッシーニ「英雄」聴いて

自慢げに大レコード盤

T 宙の彼方で

レコードの縞と見紛う

土星の輪七重の虹に
水流れる

M 夏休み

鳴いて聞こゆるジリジリと

T ジリジリと

待つ身を賣める油蟬

M 木陰なし

水の星逝く未来都市

T 水の星下闇も無き未来都市

M 同化作用

我が貧庭も日照りかな

T 早天(katen)に

息止めており庭の草

M 不老閣座る風格有難き

釈迦が賢治が永平寺僧

T 永平寺座る禪師や

不老閣袈裟むらさきに

T 百歳(モモトセ)の顔

M 道元の蛇行するな道の

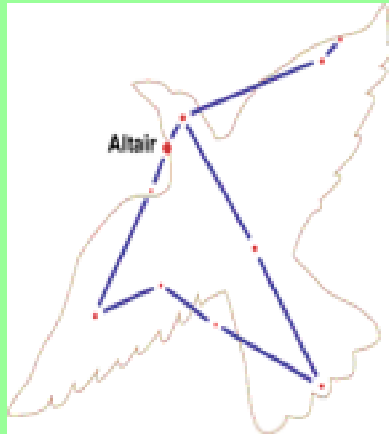
道らしく生かさん

T 示唆す教えに

道元の教えにわれは

T 導かれ未知説く術は

道のしるべと



M 文月や柔き灯りにわらい声

十六星が少年少女

T 文月のライブに憩ひ「悠久

の友」をつたえば揺れて七星

M 欲も無く褒メラレモセス

宴の獅子命ほぐさん

T 安らく星に

暑気払いかぶかぶ笑う

T クラムボン宴華麗(加齢?)に

時を忘れて

注)宮澤賢治 童話「やまなし」より
二疋の蟹の子供らが青じろい水の底
で話してました。

「クラムボンはわらったよ。」
「クラムボンはかぶかぶわらったよ。」

「クラムボンは立ちあがってわらったよ。」
「クラムボンはかぶかぶわらったよ。」

M 三拍子加齢も華麗

カレー好き 団塊世代

T ふつつかな鱈(Graf)

プールの底を這ふ

M 彼れない冷凍カレイで

我慢して 団塊二世へ

T 焼酎の過冷のボトル

彼抱だく

M ふるさとや

賑わい近し過疎の村

T 盆提灯の浴衣和まん

久々に

M 都会の風を運び来て

浴衣の帯を友と見せ合う

T かりそめの逢瀬浴衣の盆おどり

還りたや

M アイスキャンディ待つ涼音

授業の鐘が分校の夏

T ふるさとの

分校の夏懐かしき氷菓の

T 鐘のチリりと聞こゆる

分校の庭に氷菓の鐘響く

M 兄帰省

手土産開き妹のはしゃぐ

T 子等に父母嬉し

盆提灯

M 吊れば家族の笑み戻る

手土産あけて憩う昔日

T 帰省子の土産喜ぶ法師蟬

なんのその

M 灼熱の星めざしたる

メッセンジャーの暑き思えば

T 七年の

長き宇宙の旅なれば
熱き知らせをひたすら待たむ

M 摩訶不思議火星と言わぬ水の星

T 水が欲しくて熱くもえるや

M 父帰るお盆に帰省光速で

はるか彼方の青い星から

T 迎え火の煙に乗りて霊の旅

スイングバイで加速して来よ

M メッセンジャー(MESSENGER)は、

Mercury Surface, Space Environment,
Geochemistry and Ranging (水星地

表・宇宙環境・地球化学及び距離測定)

M 一千万あったらいいな宇宙旅行

T やがて来る宇宙の旅の切符欲し

M 獅子座の道の夢を叶えて

T 神に召された先祖会いたや

M 崇高な真つ暗闇に水の星

せめて見てみん百キロ上空

T 水星は水銀(マーキュリー)の意と

覚えしや宙の謎解くぞの探査機

M 我子孫きつと来るとも宇宙旅行

T 神に召された先祖会いたや

T あの星とこの星訪ね宙の旅

星てふ墓に飾る霊柩

M 逆バージョン迎え火放つ

T 宙の果て現世人(ひと)行く

M 未来盆入り

T 未来盆あま駆け抜ける

T 宇宙船乗って先祖の

星に参らむ

T 秋めくや流星群は光陰の

盆待つ宙に霊降る如く

M 誉め殺し踊らにや損々宙の下

T 闇雲に踊る阿呆は水瓶の

M 美酒を酌めずに踏み(=文)

惑う日々

― 踏基の掲示板(BS)お楽しみ下さい ―